

令和3年(2021年)度 地域連携活動報告書

連携先名称：秋田県大潟村

協定締結日：2020年3月31日

活動状況：継続中

連携先窓口：秋田県・大潟村・総務企画課企画財政班 担当者様

活動資金：補助金

担当教員(所属)：土田志郎(国際バイオビジネス学科)

活動体制(単位)：個人

関連教員(所属)：井形雅代(国際バイオビジネス学科)、石川森夫(醸造科学科)

入江満美(国際農業開発学科)、森田茂紀(デザイン農学科)

活動目的：地域連携のもとで、大潟村の産業、環境保全並びに人材の育成に向け、産業振興、地域づくり等の分野において相互に協力する。

活動内容・成果：

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大とその防止対策実施の関係で、昨年度同様、現地大潟村での調査・研究活動はできなかったものの、入江満美先生の担当された研究活動では、計画に従って順調に成果を上げることができた。活動および成果の概要は以下のとおりである。

- 1) 大潟村から受け取ったもみ殻を、保肥力を上げるためにリン酸賦活してからもみ殻燻炭にし、それを用いてタマネギの育苗を実施した。その結果、リン酸賦活したもみ殻燻炭が、予想していた以上に肥料成分を保持することが明らかになった。
- 2) 上記試験結果は、現在問題になっているプラスチック被覆肥料の代替になる可能性があることを示唆するものであったため、2021年12月1日に大潟村と行った Zoom 報告会の中で、アンモニアを利用した農業資材の試験結果について詳しく報告するとともに、意見交換を行った結果、プラスチック被覆肥料代替の可能性を具体化し、特許を取得すべきということになった。そのため、12月14日にこの件について引き続き打ち合わせを行う一方、12月23日には農生研と大潟村の中田建設の中田社長との間で、特許化に関する協議を行った。さらに、これらを踏まえ、2022年1月13日には大潟村の中田社長と

東工大ベンチャーの岩越氏との間で特許出願に向けた具体的打ち合わせを実施し、2月18日に特許出願を完了した。

- 3) 3月17日に大潟村の中田社長と今後の実験内容について協議し、それを受け、必要な資材を農大の研究室に提供していただいた。現在、アンモニアを吸着させたもみ殻燻炭をペレット化し、その配合を変えたりするなどして、より高いアンモニア含有量になる方法の開発を目指して実験しているところである。

課題・改善点：

現時点では、2022年度についても、現地大潟村での調査・研究実施の見通しはたっていないが、新型コロナウイルスに対する十分な感染防止対策が講じられるようになれば、活動の再開へ向け、先方と協議するようになりたい。一方、入江満美先生の研究活動については、引き続き計画に従って実施できる見込みである。